

「課題名：局所進行胸部食道癌に対する術前化学放射線療法併用手術の長期成績の検討」について

○ 研究の意義・目的

食道癌に対する術前化学放射線療法の有用性について多くの報告がなされており、欧米では標準治療となっていますが、本邦では多くの施設で術前化学療法が施行されています。本研究では、当院でプロトコール治療として施行してきた術前化学放射線療法併用手術の長期経過を調査し、その有用性と安全性を検討します。

○ 研究対象者

2008年1月から2012年12月の間に、広島大学病院で局所進行胸部食道癌に対する術前化学放射線療法併用手術を受けられた方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから使用する内容は年齢、性別、合併症、原疾患、各種検査所見、放射線治療、化学療法、手術の内容、治療結果、副作用についての情報です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

○ 研究期間 2017年07月26日～ 2018年12月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-1545

広島大学病院放射線治療科 講師 村上 祐司（研究責任者）